新板
修入

五子棊盤忠信

四之巻

へ13
1761
4

明文

五先碁盤忠信

第一

目孫

四之巻

席銭で勢多の橋を立る小柴は久門

金銭が金と成わらいる將棋の友

貧者の紙子いかるのない碁じ茶

酒幻者のうと去物絶い扶士の紀代物

第二

方位の吉凶俗に出て東西南北の
祝言の定いかなるとて比安楽を考ふ
年月日時を四ケ条と思ふ事の法門
概ね小説にて来る事なり信稽

第三

新しい後に女房を取り有る仕
子孫を迷ふ間の夜の祈人
妹背の中も義理にせまる胸のとも
月に一度の蘭外落ち小園果

一 碁盤で物事の烟と立る小説の文

壮年時にて碁と将棋と
なれば。世にある所の財をも
知て。碁上手なる者は。
紫の文内師流。碁打碁乃
むいの。今人会合して碁の集り。奥ゆふ碁打碁の
なるべ。碁をうち終へ打ちけ。碁の才ある中に。碁や乃
碁盤にて。碁の一番をうつても。金の威光で。安
しもの。碁もうつ。碁。我もうつ。碁面
碁盤。碁。碁でのうして。碁法とはうつる。碁紀育
あるもうつしてうれば。碁つけて。碁。碁乃。碁

[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ

さあ
でやく
そんなひまとる
まつどもじゃ
どうぞ
うつる

江戸繁昌記
あるわど
ごめませぶ
一座のやどを
うって
くださろうませ
碁會

とうぶらけて。長男でとうとんてあくたなれ。コレくさいあるまえ。子の
稚児をとぶ。お稚子。遊山の駄にかるれて。水肥にふくれまて。流れ
ホ。ちてなれし。流れ。色で拵おせいそくあるいそんなふにいつるんで。
本で。鼻こうさ。ゆうふ人でありてこ。鼻にてこひきうえ。まわ。ちや
つてくれ。ござると。草をたれて。立出んとする。ぢ。ぢ十七歳の。背負
紙と。負ごう。四ものの。ほの。若。出。本の。戸口。ぬ。ぬ。ごと。見ぬ。四
図の。者。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]の[illegible]が[illegible]れば[illegible]と思ふまゝに[illegible]伝ず私[illegible]の師匠の[illegible]
[illegible]の[illegible]ケ[illegible]ずたるるれば[illegible]ばせよ[illegible]せよ[illegible]と[illegible]ても[illegible]
[illegible]ケ[illegible]一[illegible]の[illegible]と[illegible]ひ[illegible]と[illegible]
せん[illegible]て[illegible]れて[illegible]れ[illegible]
[illegible]の[illegible]ば[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ケ[illegible]と思ふ[illegible]れて[illegible]
[illegible]の[illegible]伝[illegible]
[illegible]ケ[illegible]の[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]

三度び土[illegible]れ[illegible]れ[illegible]年[illegible]年金[illegible]の[illegible]追補役[illegible]の[illegible]
[illegible]と[illegible]の[illegible]天下の[illegible]と[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

上洛のしゆ出家は戸河内い我子の毎未のぢ。おぢつき感さう斗ぢゆうこと
て文四ゆ。ぢ。ぢ。ぢ

洞と申して候てうの〻酒の出来そうる仕中とあて捨れば師よあるゐ信人。
是〻まさの親方なり。他人への物語なども〻毒用こう悪心第五人今日
本の無文なる。新発田の勇士なる毛利孫兵衛殿を相手にして叶ふこと我親
なり。初めてなりと親方のうしいとの〻ものあるゐ無ていとたとのしと
ゐるべ。何のもの毛利の所。新発田のカ強い家なるものゐるゐ。すてい
我〻もの人どもとびの他人なるぞ。ばくべくとしの捨てこそゆりと。
無い怪びこと商売かく怪びきゐるれべきぐんとゐあこゐにも毛利と
うけて。安法さをて行られとつべいろゐもゐ〻けとるまだ。
親方かくして男打さとしてゐ石ゐいいまのゐ。人さとゐにおべきり。五
もそて出ゐのそ毛と行られ。ぐんを方い何〻てゐ第五のやうくい
ゐしぞ。そ毛もゆるとゐ実んぞ。ほのゐてゐるゐ。出ちゐれと
いろるい親方のきぐんられやく〻ちあこゐ。ちゐちべ〻捨所の酒

屋でふせ出て来てすくいべ。始い庭ぐるべるゐ。ちゐ式
つれ酒屋へ行ゐ。ちゐ捨へ板ぐるゐ和れ。ゐ場のゐそ捨ゐの
老れ三十余人ばかりもとろくとせ入ゐい小世界の人間とゐるのふを
人数ゐ。ゐ毛と来ゐ。ゐ歩ゐ出ゐるゐ。ふ毛ゐれ。ゐれべまゐ。ゐれ。ゐ具
して。ゐれとゐるとさゐ。くゐくゐゐゐ。ゐれべゐ。ゐ所をゐ。
行ゐ。ゐ人行ゐ。何ゐ行ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐれ。ゐの毛と安法さをゐれとゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆえのあつまりたるられうござんをとぞいひける三人の親たちも為ちがひて
行をとゝのふさみ〳〵自和一の上そ屋まづ西てとゝのとゝそ奥のゐ〻ば
ひやうのおかぐやどうぐのごとくにとゝのへるこゝろ人おもはぬぞひるれ

三　新しい法し女房よい耳い作為人作

世界の表も面をそしり多の人の中に新しくも
ふのゝれば岡の和子母い涙と後生に立ぬ三ゐゆう西へさられど
人のあく奥のゐれ姫失ひてく男の孫いとさまきこゝろのひさの
ゆゆゐいぞやたゝく法のの表ひ後ゐいちばん男
あゝと法外扱い親の男ちとさらゝつよ男ゐしつぐ考ふ
ぞりのあ孫ゐくうの人孫つとゐ母と涙ひが孫ゐ法ゐるとこ
てゐるのよめてあゝゐくゝく呼ゐれぞやア母ゐうと親ゐおいぞうゝ人
ござりしでやうく業であまりたぐゐさ自いどゐんでのゐ法ゐと

ゐれいぞうゐうり生れちと自ぐゐて　ついゐゐゐれ紙業ゐゐぞゐゐ
いとぞは出ゐれいぞで業づひまゐられさゐ母ゐ梅まづあの奥に孫
てゐる男い後ゐめぞ問ゐいゐゐあゐ法ゐゐゐて世ゐ人ひゐする男
と親ゐ人ゐゐゐ業ゐあゐぞりゐゐいゐゐて男ゐぞゐて同じ世て
あのゐ孫ゐ男ゐ親ゐいづぐゐゐとゐ母ゐ男ゐゐゐゐゐぞゐゐ
なのゐゐゐゐゐゐゐとゐゐゐ紙の業ゐゐゐゐゐゐゐ房
ゐゐんぞゐゐ母ゐゐゐゐの親ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
して母ゐゐゐ親ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
の親ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
いづゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ゆうべを
ちらしてくださる
えっ
むさ者
ぐらくれの
ぢ上るじゃ
まづおそいろ
ちきれまも
あこうろ
ひさーや
く
たのゞ
待ておろ
ぢ面へ
くきて
いさんせ
ちょゞ
ちゐびと
とのび
く
ちこ〳〵
そやんまり

さげ髪男と扮てみると扮げ一色ざばかりそてつぐこさゆゑに行ものゝ。
色も毎日の姫ぎやりの男ぐ所を手をまりぐ扮とそ〻ぐころぐる家
男なぐとこまをせるゝわるやはるを家ぐ所ぐのこるあるぐこのお前ち
の中に刺ぐ毎日のはるみて毎ぐ毎ぐ扮ぐおのぐりさひるるる物後
さるぐ様つるれて扮入のこと。所の男と扮げ一色分れる。毎れの
はるへこそ色ぐれ。恨ぐ紛けい毎もるに洞ぐこ色ぐ。ヤア鼠の如い
るを家ぐ行ぐておるるる。それ様ちぐ所の男と扮ぐよ。こい
ぐ家といい出色。毎ぐ色ぐはぐ。さりうぐ出れんるあぐもるこのお
へ所ぐ〻いの紛ぐているはるぐこ出ぐ鼠
毎のるぐ所ぐ。妻ぐのるれよまぐ扮ぐるるぐ色毎ぐ色の所ぐて
ゆるこん紛ぐといるて。ぐ毎ぐるるるこ所ぐ紛ぐ扮ぐ
へこの紛ぐ扮ぐるまあるる事あるぐ。ぐるるぐ扮ぐ

いつ代夏のおいりとく恨ぐるくもまの間ぐ五の縄ぐるけ。それぐ姫のあこうこ
いつい。刺ぐ所の中心ぐ。行ぐ所ぐ家ぐ行ぐ。ぐめるせまぐ毎ぐ所ぐ。
ぐびるるぐ。ぐ行ぐ。ぐ行ぐ。ぐ行

出でて出入をしてをれば私は人をうらみ恨をとしぶ
とし義しもるべきやうもなく無分別と表裏をかられと
どのへ彼ひめれいだたがを立ちをゆめ出て来ぶ留られた同心者を
ゆるしぶ内いたをけんこの性ぬこそぶ見てみ内の人をとをもとけ。
手をの彼をれ思をとさせ思さんとぶひつめてゆしぶ代のぐこう
彼のをとけう。家をとをるの彼をの舞をの四人をれやく舞を彼人して。
をの男をぬんをいふ邪をるゆれをられふが家をを彼ゆをけて内
をの人をれ雑彼をすひ毋が毋のををををわびぶをもいんぶを
家をて自家し来をを庖丁を遣をれわて洞をぶ抓ををを
を内をのをいわぶをいをんをひをを思彼のをを中ぶををを
ををの手れをれを毋は毋を去のふはをを人をゆをををもあををを
きをれをぶををを内ぶをゆ先をの百ケ日をを。

あをををれどを内を（二度嫁入彼をの嫁ぶ彼今中を毒のをを
不便ぶを思をを書を書して人をを人毋をををるを彼の男を彼を
寸を思をを内をの四を思ををををを抱をを彼ををを
さん始をかをを内をを彼を自分の地ぶを内をを考をを
内をををを思を毋ぶ男をを内をを
をの彼人の始を毋房ぶをれを思を内ぶを世をの人ぶを
をを始ををを彼を舞を金彼をを
村をを内ぶを人を考をを毋をを彼をを人を
ぶを内を彼をれを毋をを内を彼を彼を内を
をを中をを内を内を人を彼を彼を彼を内を
をを人を人を彼を人を彼を人を彼を人を
をを内を人を彼を人を彼を人を彼を人を

まとをとこ女をいはず母も同じ分なれば若も幸も知らずとぞいふ
とかやうのやうなる仕方と知人
知のうたもうつるめしに母ぐ知人してゆくさいはたらのかへゆるれぬゆう
よりはでもおいてとあそおさまとみえ出る神とひうの祭りでびび自害さん
この世をあのようにいろいろうつくしくてそぞろれもいさきれどいろふ
も知人ひさしぶりとぞいはいてで知いに母のゆるりその行てぞ行をあと
ゆずりに自害し果人のとそ知びるきらめきげんよげる新ひろう知がうら
四季ふられ絵ゑのまとをとひあぐるるまでいはとく無紙
ぐ行ゑるも書やまるはいまよの逢ひの間はれまよ大の神ぐすもわをれをて。
六月は行ていそぐる薬ひやまの月と書よ出てあるぐあ
のあまい男と果なせ。ゆ花の四と長雪あ金あよ角ぐこ人と
つとれて神しがまを中は大まぐ方かをあのつ毎。墓ゑ毎は明りでもれて

見ぐ白い女ぐ和とれは来てぴまのぐ神でいつも来る月うれい出ぐく
墓ゑおよろおをとと月は見いく見人ぐ花ゆうるとれてござるそりぐい種ぐ
中めけを見と拾とそいつるゆ宮にごげんかりをぜうう神宿ぐ義ら紙
ちてごひるく国れ仕ぐ大を宿ふりれてらぐ見れ人を新をするゆをわ
ぐごゆとなき分ばュ、ゑをごやのいや白いて振りと。えまぐ来ゆ宮いあごその
ひんをんぐ来いと。ゆ行く。ゆ分新ぐれらゆ。わをくゆ思ごるさんのゆくふ仕黒墓は
分の蝶ぎゆを。世出ひ仕男ゑれべつ人金に紙ちをゆれうとと実ら
い風の目ぐひ。ゆをくらい二世をたりれてぐそん今人今月生ゆゆをでよのそを白
きのぐく奥に田本れ仙ゑれが来ていさを人をんをくをいと
ゆ。さいぐコレは戸ぐるの中かれりをうくいぐゆをてさんをこれなべ井の中へもをいう
まのはよ。ゆ三ゑは宮ゑ新ゑ戸ゑんまりれとゑ戸ゑる成ゆ中ゑををくゑし。ゆ
戸をとて須井ゆを。ゆ新の行ゆ性ゑい稀りめく　四之巻終